



クロズアップ
今を生きる 人がそが宝
第8回

合田鉄工 会長

合田 正

幸(ごうだまさゆき)さん

創業90年の歴史と伝統を守り、鉄工に生きる

鉄工に生きる

合田鉄工は大正8年に創業以来、90年を誇る歴史と伝統を受け継ぎながら多くの町民に親しまれてきた。合田さんは、幼き頃から鉄工場での生活を体験し、昭和26年春に和寒中学校を卒業後すぐに、父が経営していた合田鉄工場(現在の農協駐車場付近)に、後継ぎとして勤めること

となる。

当時は農機具のブラウヤやバチバチ(丸太運搬用のそり)などを製作。なかでも、兄(幸夫さん)が考案したワイヤーガッチャは、丸太を運搬する際に締め付ける道具で、道外からも注文があり、生産が間に合わないほどの人気ぶりだったという。また、当時の林業の盛況ぶりはものすご

く、兄が経営していた北産木材をはじめ、安井木材や和寒林業など、林業は和寒町の産業にとって欠かせないものとなっていた。当時の町の様子も活気にあふれていたという。

そういった木材工場で使用される機械や設備の修理を行うことが多く、工場が停止する土日や、夕方に工場を訪れなければならぬことから、正月やお盆、子どもの運動会すらいけなかったと当時の様子を振り返る。

修理と製造販売へ

その後、農業基盤整備が盛んに行われるようになる。

この基盤整備で活躍したのが、柵渠といわれる排水路である。この工法が活用されるようになってから、合田鉄工での仕事はより忙しさを増した。鉄骨を大量に加工するためには、切断するための機械も必要となることから、設備の更新も行った。また、パイプラインのエア抜き用のパイプの製作など、和寒町の発展

とともに、鉄工の仕事もたえず変化しながら、時代に即した製品の製造販売を行うようになる。しかし、合田さんは「いい時ばかりだけではない。仕事のないときは大変な苦勞もした。皆さんの助けが、ありがたかった」と、当時の苦勞話を笑顔で語ってくれました。

大事にしてきたもの

そんな合田さんが大事にしてきたのは従業員。「従業員は家族同様。つらいときも共に過ごしてきた。」という。

現在では、息子の菊夫さんに経営を譲り、経営の全てを息子さん夫婦に任せている。そんな今でも工場に毎朝一番に出社し、ストーブをつけ、仕事がしやすい環境を作ることが毎日の日課になっている。

合田さんは「時代も変わりその時代に対応するには相当な苦勞が必要だと思うが、力をあわせて頑張っしてほしい」とエールを送ります。その表情には、やさしさと会社を思う情熱を感じさせてくれました。



合田 正幸さん【合田鉄工】73歳
和寒町字三笠 TEL0165-32-2065
出身：和寒町字西町生まれ
経歴：1948年 和寒小学校卒業 1951年 和寒中学校卒業
1951年 合田鉄工場(西町) 1972年 (有)合田鉄工所(南町)
1993年 (株)合田鉄工(三笠)
趣味：S Pゴルフ、スポーツ吹き矢